

## 第3回タウンミーティング in 長岡のご紹介です。

とみおか子ども未来ネットワークで行いました「第3回タウンミーティング in 長岡」の様子をご紹介します。今回は富岡町民だけのクローズ会議だけでしたが、新潟に避難している富岡町民の悩みや不安などをくはき出す>かたちで話し合いをしました。家族のこと、子どものこと、仕事のこと、富岡町のこと…。一人ひとりが直面している切実な問題が出され、共有できたと思います。グループ討議で出された意見のなかからいくつか紹介しましょう。コメントとあわせてご覧いただければと思います。

★開催日：平成24年9月22日（日）14：30より

★会場：ハイブ長岡

★参加人数：約20名



【写真】タウンミーティングの様子

### 【現在の避難生活について 慣れない土地で生活することの大変さ】

- ・歩くリズムとか、いわきに行くとホッとする。県境のトンネル抜けて福島に入るとルンルンになる。
  - ・最初は、新潟の雪と寒さに驚いた。雪かきや車の雪下ろしが大変。あと、空の色が違う。冬に洗濯物や布団を外になかなか干せない。
  - ・新潟から一時帰宅するのが大変。年をとると、日帰りにはできないので、1回郡山に宿泊してからになる。一時帰宅したくても、何回も行くことができない。
  - ・自分の家は瓦が落ちて、雨漏りし、草ぼうぼうの状態。また、家は3月11日のままの状況で、どこから手を付けていいのかわからない。
  - ・ただ、いわきの住みにくさもあるようだ。いわきの異様な感じ。病院は2時間待ちだし……。
- ふるさとと新潟との「遠さ」がいろいろな場面で見られたと思います。そういった中で、県外へ避難していることの大変さが共有されたと思います。

### 【仕事に関する苦悩 何が正しい選択なのか？】

- ・仕事先が福島工場を閉鎖して関東地方で事業再開する予定だが、福島工場の人間を移そうとしている。しかし自分の家族には高齢者もあり、世帯人数も多いので、移ろうにも移れずに困っている。
  - ・避難先では子どもたちが小・中学校に慣れてきた。そうすると、中学校・高校を卒業するまでは新潟県にいないといけなくなる。母親はいわき市に戻りたいと言っているが、自分としては子どものことを中心に考えざるをえない。
  - ・震災後、家族全員で県外へ避難していたが、勤め先の事業所は県内中通りにて再開した。しかし自分としては、子どもがいて避難先で慣れてきているので、対応がむずかしい。福島県内は復興需要でいろいろなところから「こっちを手伝ってくれ」と言われるが、県内の復興需要が何年続くかわからない。
- 生活を再建していく上で仕事は重要な課題ですが、これは自分ならびに家族の将来の人生設計と密接に関係するものです。それについて「何が正しい選択か」を分からず困っている様子がうかがえました。

### 【二重住民票の必要性】

- ・学校のために住所を移した。出産(母子手帳の交付)のため住所を移した。しかしそれでは富岡町の情報が不足してしまう。
  - ・住民票を移さなくても避難先の行政サービス等が受けられることの情報混乱している。
  - ・行政の対応は遅いと感じてしまう。どこか他人事のように思う。特に県外だと情報が入ってこない。
- みなさん住民票の取り扱いで困っていました。これについては正しい情報を県や町が伝えていくべきだという指摘がなされていました。

**【福島県民に対する差別について】**

- ・福島の子供は結婚してはいけないという発言が日本生態系協会会長よりあったと聞いた。怒りに耐えない。
- ・県外でのいじめの話も聞く、福島の間人だからということでの診療拒否もあったと聞きし.....
- ・説明不足が誤解を招く。大人の偏見がこどもに影響する。

**●公の組織から差別発言が出たことの紹介がありましたが、これまでのタウンミーティングでもいろいろな場面で福島県民に対する差別があることが指摘されていました。ただし、泣き寝入りするのではなく、まずはこのような場で共有していくことを出発点に、改善に向けて取り組んでいくことが必要だと思います。**

**【賠償の進め方について スピード感か？ 満足感か？】**

- ・財物賠償の基準が震災後一年四ヶ月後によく示されたが、自分としては、スピードも満足度も重要。自分としては、時間がかかってもいいから満足な基準を立てて欲しい。しかし、限られた時間しか残っていない70歳・80歳以上の人にとっては、すぐに賠償してくれないと意味はない。

**●賠償については世代によって考え方が異なりますが、どちらが間違っているということはありません。話し合いの中から誰もが満足する方法を考えていくことが重要です。**

**【将来のこと 帰りたい、でも帰れない.....】**

- ・5年後帰れるようになっても、住める状況ではない。国が20msvという基準を決めること自体がおかしい。自分は帰る気もない
- ・これからもう長期のローンは借りられないし、（賠償がきまらなと動けない）。賠償・補償が決まらなと先に進めない。住むところを定めたい。
- ・富岡で作ってきた人間関係、まちの中で知り合いに会うような関係が欲しい。「仮の町」について議論されているが、できればいわきと郡山なんて2つに分けないで一つにしてほしい.....
- ・これまでの人生だけでなく、これからの夢も失った。「新しい家があれば解決」ではない。

**●今回のタウンミーティングは賠償指針が示された直後ということで、賠償に関する話が話題に上りました。ただし、賠償だけでは問題が解決されないことも共有されていました。「仮の町」の話を含め、中長期的な課題についていろいろと議論ができたのは重要な事ではないかと思ひます。**

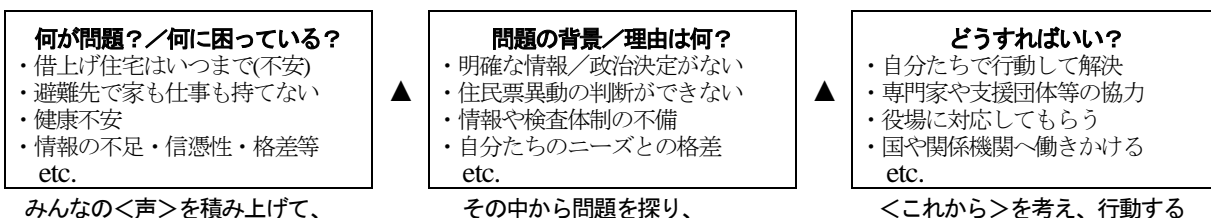


【写真】 グループ討議のまとめ

**◎子ども未来ネットワークから**

改めて、皆さんと一緒に<気づいて・考えていく>ことが大切なことだと実感した会でした。皆さんも周りの方々に（ご自身のことを含め）いろいろな情報を教えていただきたいと思ひます。そこから今のバラバラな状況が点から線へとつながって面になるかもしれません。そうした一歩一歩が、いま<土地/地域を奪われてしまっている>私たちに必要なことだと感じています。

【図】 タウンミーティングのプロセス



みんなの<声>を積み上げて、

その中から問題を探り、

<これから>を考え、行動する